



卒業生の皆さんへ

岩手県立農業大学校 校長 下村 功

本校を旅立つ59名の皆さん、卒業おめでとう。御家族の皆様方にも、心から御祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは、4月からそれぞれの道を歩み始めます。自家や農業法人等で農業生産に携わる者、農業団体や農業関連企業で農業生産を支援する者、食品の加工や販売など農畜産物を消費者に提供する者、4年生大学でさらに農学を修める者など、多くの人が本校で学んだ知識や技術を生かした道に進みます。農業大学校としては、皆さんのような将来の地域農業・農村を担う多くの若者を社会に送り出せることは大きな喜びです。

今、日本の農業は、本格的な人口減少社会の到来、農業従事者の減少、気象変動の激化や地球温暖化の影響の表出、経済や情報の一層のグローバル化の進行、不透明感が増す国際的な政治情勢、ICTやロボットなどをはじめとする新技術の発展など、取り巻く環境が複雑化し、大きく変動する中にあります。こうした時代にあっては、従来の経験則では解決できない課題も多く、若い皆さんの新たな発想や感性、行動力が突破口を開いて行くでしょう。

皆さんは、本校で学んだ知識・技術を基礎として、卒業研究で習得した課題解決手法や数多くの事例研究で得た情報分析力を駆使し、地域の人達や他業種の人達とのネットワークを築き、自身の夢と地域の将来のために果敢にチャレンジしてください。たとえ失敗しても、常に前を向いて立ち上がりチャレンジを続けてください。その先には、輝く未来があります。卒業する皆さんが、地域の担い手として活躍し、輝く未来を築くことを祈念し、卒業する皆さんへの激励とします。



平成28年度卒業式が行われました。



3/8 新体育館での卒業式の様子



答辞を読む今松真理さん(肉畜経営科)

卒業生からのメッセージ



【農産経営科】私たち農産経営科は個性豊かな男ばかりのメンバー13人でした。学業や寮生活では協力し合い、これから社会に必要な知識と沢山の思い出を作ることが出来ました。また、授業や実習を懇切丁寧に教えて下さった伊藤先生、義隆先生、そのほか多くの先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。



【野菜経営科】野菜経営科はそれぞれ個性溢れる人柄が揃った14人のメンバーで、2年間の学生生活を共に過ごしてきました。担任である深澤先生をはじめとした多くの先生方には、農業に関する知識や技術の習得に向け、時に厳しく時に優しくご指導していただき、とても感謝しています。

これから社会人になって、辛いことがたくさんあると思いますが、農大で培った経験を生かして乗り越えていきたいと思っています。



【果樹経営科】私たち果樹経営科のメンバーは、個性豊かな8人の集まりでした。2年間という短い間でしたが、様々な人と出会い、農業を共に学び、かけがえのない日々を過ごすことができました。私たち8人は、それぞれが決めた進路を歩んでいきます。この2年間で学んだことや、たくさんの繋がりを大切に、今後の人生を歩んでいけたらと思います。

この2年間で学んだことや、たくさんの繋がりを大切に、今後の人生を歩んでいけたらと思います。



【花き経営科】花のように個性がある花き経営科7人の学校生活はあっという間でした。少人数でしたがお互いに協力し、助け合いながら実習や座学、当番や行事に励むことができました。

4月からはそれぞれの道を進みますが、この先どんなことが起きてもこの農業大学校での2年間は忘れません。この学校で出会った先生方や友人達には本当に感謝しています。いままでありがとうございました。



【醸造経営科】私たち9人はそれぞれ個性豊かでタイプも全く違うメンバーでした。だからこそぶつかり合うこともありました。が無事卒業まで来られたのは多くの

方々のサポートがあったからこそです。農大で2年間学んだことを胸に刻み、それぞれの将来に向け頑張っていきます。2年間お世話になりました。ありがとうございました。



【肉畜経営科】私たち肉畜経営科は、6人と少ないクラスでしたが、朝・夕の当番や実習、行事などお互い協力し合って辛い時や大変な時期を乗り越えてきました。卒業を迎えてみると農大の2年間は、すごく短く感じました。でも、2年間この6人で楽しく大学生活を送られて

よかったです。卒業後は、全員が農業関係の進路に進んでいきます。辛い時や大変な時が必ずあると思いますが、農大で学んだことを生かして頑張っていきたいと思っています。2年間ありがとうございました。



【研究科】研究科では水稻に関する卒業研究に加え、農業経営のあり方を学びました。現地事例研究で訪れた北海道は、大規模直播栽培等、今後の本県農業経営の見本として視察することができました。卒業研究に際してご指導して下さった先生方を始め協力いただいた皆様に、両学生とも感謝しております。ありがとうございました。



卒業を祝う会

3月8日（水）卒業式終了後に農業大学校の食堂で卒業を祝う会が開催されました。卒業を祝う会は、父母の会が思い出の詰まった学び舎で、お世話になった先生方に謝恩の意を表したいと企画したものです。短い時間ではありましたが、卒業生は先生方との2年間の思い出に感慨もひとしおの様子でした。



小原「父母の会」会長の挨拶



想いを語る卒業生



僕は農大を選んで正解だった

プロジェクト学習の成果を発表!!

本校教育の大きな柱の一つであるプロジェクト学習の成果を発表する卒業研究成果全体発表会を12月21日（水）に本校大教室で開催しました。

全体発表会では、科別発表会を経て選ばれた本科生14名・研究科生1名が1年間の研究成果を発表し、中央農業改良普及センターの山館忠徳所長ほか6名の審査員により厳正な審査が行われ、下記のとおり最優秀賞1名、優秀賞2名が決定しました。



最優秀賞

プレディッピング剤の見直しによる乳頭清拭効果等について
酪農経営科2年 増田 愛

1 課題選定理由

授業で「プレディッピング剤を暖めると効果が上がる」と学んだ。調べると、温かい液体の方が乳頭の汚れが落ちやすく、冬期は温めたものを使用の方が乳頭への温度刺激も少ないというメリットもあると知り、より詳しく調べてみたいと考えた。

2 実施方法

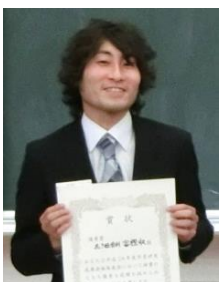
冬期（11月）に、本校のホルスタイン種3頭（泌乳中期から後期）の搾乳前に使用するプレディッピング剤の種類（液と泡）と温度（温かいと冷たい）について、違いがあるのか比較した。

薬剤	温度	常温(冷たい)	暖める
コード系		慣行	試験1
泡系		試験2	試験3

- (1) 搾乳刺激～拭き取りチェック、ミルカー装着はいずれも同一人物が実施した。
- (2) 搾乳時間・乳量
それぞれ3日間、夕方搾乳時に実施して比較した。
- 3 結果
 - (1) 温めて使用した方が乳量は多く、搾乳時間は長い傾向にあった。
 - (2) 温めることで、調査した夕方搾乳1回につき177円/頭の増収が得られた。
 - (3) 泡の方が1日あたりの経費が3割安いことが分かった。
 - (4) 泡の方が搾乳者から使いやすいという評価が多かった。

4 考察

乳頭清拭の効果と乳頭ロスコアには種類と温度の影響は見られなかったが、プレディッピング剤を温めたことで乳量が増加し収入増加の期待が見込めること、泡の方が経済的で使いやすい結果となったことから、冬期は泡ディッピング剤を温めて使用すると良いと思われた。



優秀賞

トルコギキョウの抑制作型における短茎開花の回避対策の検討
花き経営科2年 富樫 収

1 課題選定理由

トルコギキョウの抑制作型は、育苗期から生育期の高温経過等で短茎開花が発生しやすい。

本研究では定植前から地温上昇を抑制する対策を組み合わせ実施し、効果を検討する。

2 実施方法

(1) 昇温抑制効果

試験区	マルチ資材	遮熱被覆	短日処理	サイトかん水
慣行区	白黒マルチ	×	×	×
試験区1	タイパック	×	×	×
試験区2	タイパック	メガクール	×	×
試験区3	タイパック	メガクール	○	○

(2) 切り花品質調査

1区50株、S～2Lまで4規格

(3) 利益

単位：円/a

	粗収益	費用	利益	所得率
慣行区	131,200	27,670	89,036	67%
試験区1	131,200	36,070	89,422	68%
試験区2	154,080	39,230	106,811	69%
試験区3	176,960	47,503	107,449	60%

3 研究結果

- (1) 試験区3の地温が最も低かったが、試験区2もほぼ同程度であった。
- (2) 慣行区の採花本数111本2Lサイズ 16%に対し、試験区2は2Lサイズが20%と多く、試験区3はSサイズが16%と多かった。
- (3) 試験区2は10月の単価が高い時期に採花でき所得率が最も高かった。試験区3はSサイズが多く所得率は最も低かった。

4 考察

- (1) 慣行区と試験区1、試験区2と3の地温がほとんど同じだったことから、遮熱ネットメガクールの昇温抑制効果が大きかった。
- (2) 地温抑制による高単価時期の出荷と2L率など品質向上、また費用面からも試験区2のメガクールが最も効果的だと考えられる。



優秀賞

盛岡市(旧玉山区)圃場における
水稻適品種の選定と地域差に
よる収量及び品質の違い
農産経営科2年 高橋和樹

1 課題選定理由

祖父母が盛岡市(旧玉山区)で「ひとめぼれ」「あきたこまち」を栽培している。そこで、県オリジナル品種「銀河のしずく」を加え、盛岡と農大で収量品質を対比させて適品種を選定する。

玉山はいもち病の被害を受けにくいので、穂いもち病防除の省略も検討する。

2 実施方法

(1) 穂いもち病調査

フジワン粒剤4kg/10aの防除区と無防除区

(2) 収量調査

堆肥、基肥(N2.5kg/10a)、追肥

(3) 食味官能調査

評価:外観,香味,粘り,硬さ,総合

3 結果

(1) 玉山は防除しなくてもどの品種も全く穂いもち病の被害が無く、栽培上有利である。「銀河のしずく」は農大圃場でも被害がなく品種特性が発揮された。

(2) 玉山の方が「ひとめぼれ」「銀河のしずく」の収量が高い、しかしくす米率も高い。あきたこまちはくす米率が高く収量が低い。

(3) 玉山の方が「ひとめぼれ」「銀河のしずく」の食味が良好であった。

4 考察

(1) 玉山ではいもち病の防除は必要なく、この地域特性を活かして、特別栽培や有機栽培に取り組みべきである。

(2) 玉山では「銀河のしずく」が最も適していると言える。

東日本農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会

1月19日(木)~20日(金)、福島県西白河郡矢吹町で標記大会が開催されました。

本校からは11月に開催された校内意見発表会において最優秀賞の肉畜経営科1年の佐藤太朗さん、優秀賞の酪農経営科1年の星野紘希さん、12月に開催された卒業研究成果発表会において最優秀賞を受賞した酪農経営科2年の増田愛さん、優秀賞の花き経営科2年の富樫収さんと農産経営科2年の高橋和樹さんの5名が臨みました。

残念ながら入賞はできませんでしたが、各県代表と交流するなど有意義な大会参加となりました。



平成28年度 東日本農業大学校等
プロジェクト発表会・交換大会



上 福島入りした学生一同

左 交換大会での岩手農大紹介

～ 今後の主な行事予定 ～

- 4月 7日(金) 始業式
- 4月10日(月) 新入生入寮
- 4月11日(火) 入学式
- 4月12日(水)~13日(木) 新入生ガイダンス
- 4月14日(金) 学生健康診断
- 4月19日(水) 消防訓練
- 4月28日(金) 全校ガイダンス
- 5月24日(水) 学生自治会総会
- 5月25日(木)~26日(金) 東日本農大等親善球技大会(会場:山形県)
- 6月 2日(金) 父母の会総会・保護者懇談会
- 6月 7日(水) 学生自治会スポーツ大会
- 6月21日(水) 進路支援セミナー



正門から続く桜並木